坪　と　尺　貫　の　話

中村河川国道事務所
用地課長　　有澤　尚可



１．はじめに

１１月某日の朝、「四国技報の読者の声に寄稿して下さい。」と依頼がありました。誠に恥ずかしい話ではありますが、今まで本誌を読んだ事も余りないため、一度お断りをしたのですが、「編集委員会にて決定しましたので、よろしくお願いします。」と有無をも言わせぬ返答でしたので、今回投稿させていただくことなりました。

２．仕事でよく使う坪

「不動産の表示に関する公正競争規約」によると面積は平方メートルを単位として表示することになっています。

ただし、不動産を考えるときは坪単位で考える方が分かり易いので一般的となっています。

では、１坪は何平方メートルかというと３．３平方メートルというのが一般的です。

３．何故１坪が３．３平方メートルか

尺間でいうと１坪は１間×１間となっています。１間は６尺ですから６尺四方の形を１坪と言っていたのです。

明治時代に度量衡を統一するとき、曲尺（かねじゃく）を基準に尺の長さが決められたようです。

その時に「１メートルの３３分の１０を１尺とする」と決められました。

これを基に計算すると

１尺＝１０／３３ｍ

１間＝６尺＝６０／３３ｍ

１坪＝１間×１間＝（６０／３３）×（６０／３３）＝３６００／１０８９平方メートル

となり、１坪は約３．３平方メートルとなるのです。

では、１平方メートルは何坪かというと

１平方メートル＝１０８９／３６００坪＝０．３０２５坪となります。

「０．３０２５」という数値を使えば、掛けることで平方メートルから坪に、割ることで坪から平方メートルに換算できます。

また、１坪＝畳２枚分という言われ方もします。畳の長さは、長い方は１．８１８m短い方は９１ｃｍで、短い方２枚分で長い方と同じ長さになるので、結果として１間×１間と同じ事になります。

ちなみに平方メートル／１．６２で面積を畳の数で計算できます。〇帖として計算できますが、畳の広さに関しては地域や使う畳の種類によって実際の広さが変わってきますのであくまでも目安としかなりません。

畳の広さについての参考数値は次のとおりです

本間（京間）　９５ｃｍ×１９１ｃｍ（九州・四国・中国・近畿）

団地間　　８５ｃｍ×１７０ｃｍ

４．不動産取引に使われるその他の単位

不動産取引の場合、坪の他に畝・反という単位がよく用いられます。

これらの単位は、１畝＝３０坪、１反＝１０畝＝３００坪ということですから、平方メートルに換算すると１畝は約１００平方メートル、１反は約１０００平方メートルということになります。

また、○反○歩という言葉もよく聞きますが、この場合の歩は、坪という意味です。

農地を取引する場合は反当り○○○円と言い、宅地を取引する場合は坪○○円と言うのが一般的です。

私たちの買収においても、話をする時は平方メートル当たりの単価のみではなく、坪当たりの単価を参考として提示する方が関係者は理解しやすいです。

これは、一般的に不動産の取引をする場合坪単価で行われており、価格の比較が坪単価でないと分かりにくい為です。

４帖半の部屋と言えばだいたいの広さが分かりますが、７．２９平方メートルの部屋と言われても広さが分かりにくいのと同じ事だと言えます。

５．私たちの生活の中にあるその他の単位

不動産取引以外にも、私たちの生活の中に尺貫法は生き続けています。

ご飯を○合食べたとかお酒を○升飲んだ等数え切れないほど私たちは尺貫法を使っていますが、これはご飯を○ｇ食べたとかお酒を○リットル飲んだというよりも分かりやすいためです。

何故でしょうか。学校でこの単位を使って勉強する事はありませんが、私たちは自然とこの単位を知っています。

それは、この単位が私たちの日常生活と共に生きてきたからです。

日常生活の中で使用される単位であるからこそ、この単位が生きてこられたのです。

そういう意味で、商取引のグローバル化がどんなに進もうとも、尺貫法は私たちの生活から消えることはないのではないかと思います。

皆さんも身の回りにどんな尺貫法があるのか、もう一度見回して見ればどうでしょうか。